

令和3年度東大阪市地域研究助成金事業の研究成果の今後の活用について

| | |
|------------|--|
| 研究テーマ | 留学生と小中学生の多言語・多文化交流 |
| 担当部署 | 東大阪市教育委員会学校教育部人権教育室 |
| 研究の希望理由 | <p>市内学校園において今後、多文化共生教育を推進していく中で、多様な人との出会いを通じた交流プログラムを各校で実施していくことになる。プログラムを実施するに当たり以下の2点を研究希望</p> <p>①交流までの準備及び交流当日の課題の整理</p> <p>②交流プログラムが与える子どもへの教育効果、課題の分析</p> |
| 研究内容 | <p>市内小学校で研究指定校を3校設定し、各小学校と大学生（留学生）の交流プログラムを実施。その後、各校の多文化共生に関する学習成果を発信・交流する場を設定し、他校の児童と大学生が一同に交流することで見えてくる成果や課題を分析。</p> <p>分析方法については各交流プログラム後に行った感想文の内容を、カテゴリー分析（maxqda/KHCoder）</p> |
| 研究成果 | <p>①当日までに小学校・大学間でプログラムの内容（交流の目的や参加方法等）を共有しきれないと、交流が表層的な理解にとどまってしまうという点が見られた。また、教職員の多文化に対する認識が低いと、交流の説明や児童の作成する資料がやさしい日本語を意識したものにならないということが課題として明らかになった。</p> <p>②留学生との出会いは、子どもたちに他国に対する気づきや発見を与え、交流を通して将来展望の意識を育てるものとなっており、一度留学生との出会いを経験している子どもは、交流を重ねることで学びの質が深まるということも示された。</p> <p>一方で感想には新しい知識に関するものが多くみられた。感想シートの形式や交流の方法、教職員の声かけによって、子どもの学びに変化が見られた。</p> |
| 研究成果の今後の活用 | <p>次年度より市内小学校において外部講師をゲストとして交流する多文化共生の取組みを進めていく。交流に当たり学校側が意識しておく必要があることについての周知を図るとともに、教職員の多文化共生に関する理解を進めていくための研修等学びの場を設定していく必要がある。</p> |